

公益財団法人日本テニス協会

アニュアルレポート 2020

JTA Annual Report 2020



JTAアニュアルレポート2020の発刊にあたって

公益財団法人日本テニス協会 会長

山西 健一郎



JTAアニュアルレポートは、日本テニス協会の活動と運営状況を広くテニス関係者、愛好者、協賛企業、寄附者の皆様にお伝えする重要な情報発信ツールです。今年も2020年版を発刊するに当たり当協会を代表してご挨拶申し上げます。

私は昨年4月の会長就任以来、風通しの良い組織運営を通じた健全性と収益性を重視し、その基盤の上に組織としての成長を目指して参りました。また、「日本のテニスの中長期戦略プラン」の実行を進めております。

その中、新型コロナウイルスの感染拡大により多くの尊い命が失われ、また、経済的困難に直面する事態となり、スポーツ界でも東京オリンピック・パラリンピックや各種大会の延期・中止等を余儀なくされています。このような時期に当協会がテニスを通してどのような形で国民の皆様のお役に立てるのか、その事業や運営のあり方を真摯に見直して参ります。

テニス・ステークホルダーの皆様、そして全国のテニスを愛する皆様、引き続き当協会の活動に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

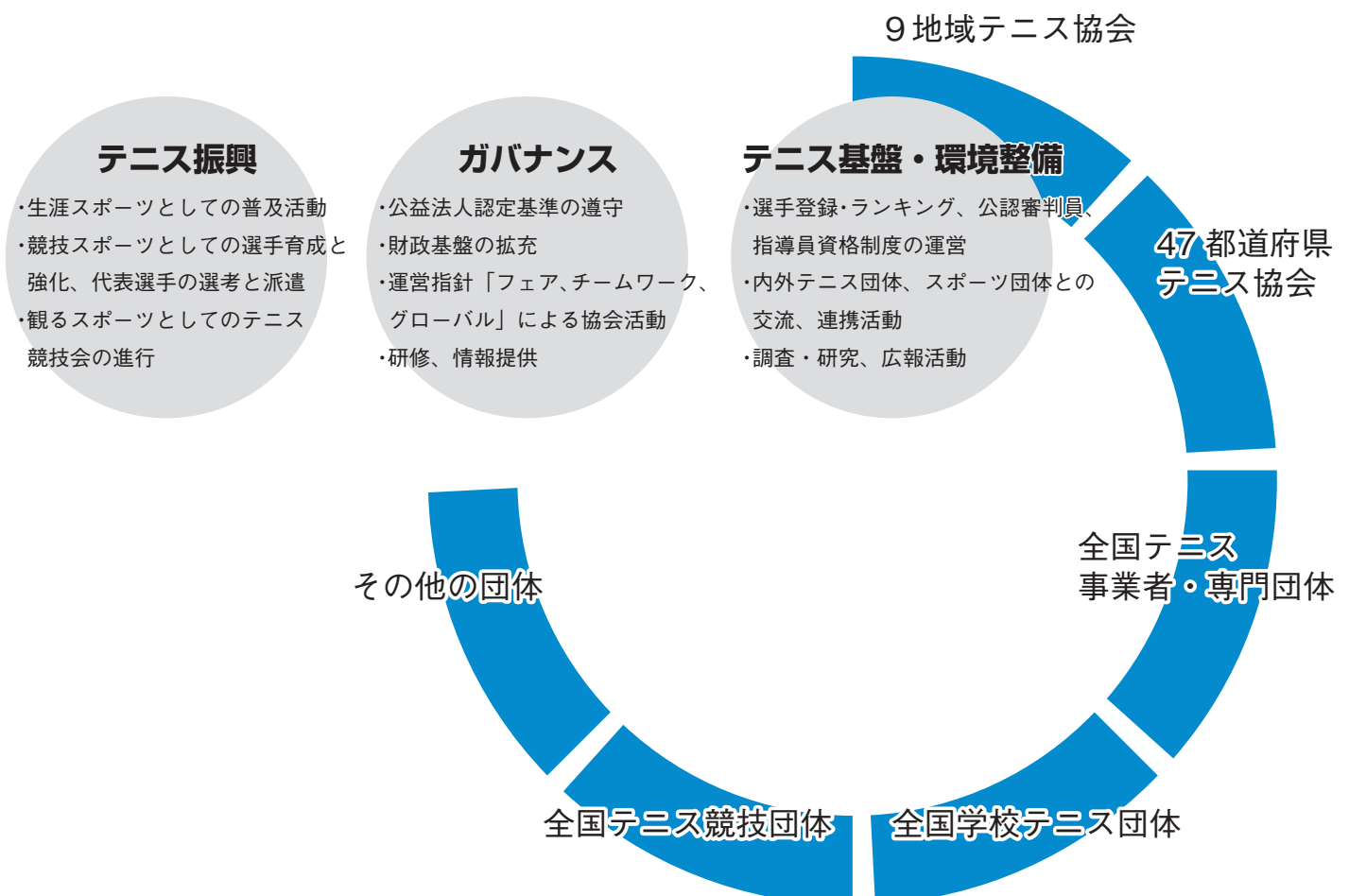
日本テニス協会（JTA）は、日本のテニス界を統轄し、代表する全国スポーツ競技団体（NF）です。1922年に発足、2012年に財団法人から公益財団法人に移行し、テニスの振興と発展をその活動の目的としています。

これらの活動は、強化、普及育成、事業、総務・財務の分野別本部と、そのもとに設置された36の専門委員会が事務局サポートの下で実施しています。

そして、400名を超える委員がボランティアとして委員会活動に参加しているのも、NFとしてのJTAの特徴ともいえます。

また、JTAは国内では日本オリンピック委員会、日本スポーツ協会に、国際的には国際テニス連盟、アジアテニス連盟に加盟し、一方、加盟団体として全国9ブロックを代表する地域テニス協会と47都道府県テニス協会を擁しています。

そして、全国テニス事業者団体・専門団体、全国学校テニス団体、全国テニス競技団体との間では協力団体の関係を築いています。



強さをまとう。

Bioré UV

Athlizm アスリズム



最高クラスUV SPF50+ PA++++



過酷な環境^{※2}にも耐える。

汗・水に強く、落ちにくい。



※1 ビオレUVシリーズ内における、UVカット効果 (SPF50+PA++++) および、高温多湿環境での塗膜の落ちにくさ ※2 高温多湿環境 (40℃、湿度75%)



活動目的

生涯にわたり誰でも参加できるテニスは伝統的な大衆スポーツで、オリンピック・パラリンピック競技スポーツという国際性を持ち合わせることから、国民スポーツとしての役割は大きいといえます。当協会はテニス振興をその公益活動目的に据え事業を行っています。

生涯スポーツとしての普及

テニス人口の裾野拡大のためにはテニピン及びTENNIS PLAY & STAYを通じた普及が鍵であると考えています。加えて、テニス競技の中体連加盟による中学校テニス活動の推進、選手登録・ランキング制度のジュニア選手・ベテラン選手への拡大適用、テニス指導者の養成も重視しています。またテニス界としての全国規模の連携イベント「テニスの日」に参加しています。



観るスポーツとしての振興

世界の多くの人々がテニス観戦を楽しんでいます。日本においてもジャパン・オープン、パン・パシフィック・オープン、ジャパン・ウイメンズ・オープン、全日本テニス選手権などの国際・国内大会が開催されています。当協会もこれらの主要大会の多くを主催し、また、全国各地で開催される多くの競技会も公認・後援しています。



ジャパンウイメンズオープン



競技スポーツとしてのジュニア育成と選手強化

テニスの普及・育成・強化には中長期的な取り組みが不可欠とし、一昨年、「日本のテニスの中長期戦略プラン」を策定しました。選手の育成・強化については、当面は東京オリンピックでのメダル獲得とデビスカップ・フェドカップでの競技力向上対応が施策の中心となります。ナショナルチームは、味の素ナショナルトレーニングセンターを拠点に競技力向上を図っており、日本スポーツ振興センターによる委託・助成事業、日本オリンピック委員会の補助・助成事業に加え、多くの企業からの協賛金、個人・団体からの寄附金、公益・一般財団からの助成・補助さらには大会出場選手からの協力によるワンコイン制度等からの支援を受けています。またジュニア選手の育成も本格化させ、ナショナル代表選手への移行を早めるための特別ジュニア強化プランの遂行や、フランステニス連盟及びオーストラリアテニス協会との相互協力覚書の締結による育成・強化分野での国際交流事業も行っています。



ガバナンス向上・コンプライアンス確保

- ・倫理規程と処分手続規程の整備や研修会
- ・eラーニング等を通じたコンプライアンスの徹底
- ・公式ホームページ等を通じた情報発信による開かれた活動
- ・公益法人としての認定財務3基準の遵守
- ・登録プロフェッショナル選手を対象とした法令遵守施策の採択
- ・違法行為・反倫理的行為再発防止策の策定
- ・日本テニス界のスポーツ・インテグリティ確保のための情報提供と啓発活動

テニス基盤・環境整備

- ・選手登録制度の運営
- ・公認審判員制度の運営
- ・指導者資格の運営
- ・認定テニス・トレーナー制度の運営



DecoTurf®

Surface of the US Open

Reliable, durable, consistent and low-maintenance tennis court surfaces



2019年度の日本テニスを振り返る

東レ初優勝も、苦しいシーズンを過ごした大坂

2019年全豪を制して、日本選手としてシングルスで初めて世界ランク1位となった大坂なおみにとって、その後は苦しいシーズンだった。第1シードとして臨んだ全仏では、3回戦でダブルス巧者のカテリナ・シニアコバ（チェコ）の粘りの前にミスを重ねてストレート負けし、2週後のネイチャー・バレー・クラシック（英国）でもユリア・プティンツェワ（カザフスタン）に2回戦で敗れて、在位5か月ほどで世界1位の座をアシュリー・バーティ（豪州）に明け渡した。その後のウィンブルドンでも再びプティンツェワに敗れて、四大大会では17年全仏以来の1回戦敗退となった。得意の全米ではベスト16まで順当に勝ち上がったが、4回戦で同世代のライバル、ベリンダ・ベンチッチ（スイス）に敗れて、大会連覇を逃した。

苦戦の続いた大坂だったが、日本に戻って輝いた。大阪開催となった東レ・パンパシフィック・オープンでは、苦手のプティンツェワをストレートで下すなど危なげないプレーを日本のファンに披露、セットを落とすことなくツアー通算4勝目を挙げた。東レで日本選手が優勝したのは1995年の伊達公子以来2人目、大坂にとっては16年、18年に続く3度目の決勝でつかんだ初優勝だった。大坂は2週後の中国オープンでは、決勝で世界1位の



バーティを破って、出場2大会連続優勝を飾った。

大坂は上位8人が出場するシーズン最終戦のWTAファイナルに2年連続で出場、予選リーグ初戦でペトラ・クビトバ（チェコ）から白星を奪ったが、右肩を痛めて大会を棄権した。20年はシーズン初戦のブリスベン国際（豪州）で2年連続のベスト4に入り、連覇のかかる全豪に挑んだ。しかし、3回戦で15歳（当時）のコリ・ガウフ（米国）に敗れて、2年連続優勝はならなかった。



錦織は右ひじを痛め、19年終盤にツアー離脱

2018年のウィンブルドン、全米、そして19年の全豪と、四大大会では3大会連続でベスト8以上に進んでいた錦織圭は、全仏でも準々決勝進出を果たした。ラスロ・ジェレ（セルビア）との3回戦、ブノワ・パール（フランス）との4回戦はともにフルセットにもつれる接戦だったが、粘り強いプレーで難敵を振り切った。しかし、準々決勝ではラファエル・ナダル（スペイン）に完敗した。

全仏で右ひじを痛めた錦織は、芝の前哨戦をスキップしてウィンブルドンに出場。ここでも堅実なプレーで勝ち上がり、2年連続で準々決勝に進んだ。準々決勝ではロジャー・フェデラー（スイス）から第1セットを先取したものの、その後はフェデラーのスキのないプレ

ーに押し切られて逆転負けした。

その後は右ひじの痛みで苦しんだ錦織は、全米前の2大会はともに初戦敗退。全米では2試合を勝ち上がったが、3回戦でアレックス・デミノー（豪州）に敗れてベスト32で姿を消した。錦織はその後の大会出場を見送り、10月に右ひじを手術してツアーを離脱した。

西岡トップ50入り、杉田と内山は100位内に

西岡良仁は着実な歩みを見せた。19年全仏では本戦出場3度目で初めて1回戦を突破すると、2回戦では第8シードのファンマルティン・デルポトロ（アルゼンチン）に破れはしたものの、4時間近いフルセットの大接戦を演じた。その後、北米のハードコート・シーズンに入ると、8月のウエスタン・アンド・サザンオープン（米国）では2回戦で初対戦の錦織を破るなど、予選2試合を含めて5試合を勝ち上がって、マスターズ1000大会で初めてベスト8に進出した。続く全米でも4年ぶりに2回戦に進んだ。

20年はツアー国別対抗戦となる新設のATPカップ（豪州）で日本チームのエースを務め、3対戦でシングルス2勝と健闘、その後の全豪ではラスロ・ジェレ（セルビア）、ダニエル・エバンズ（英国）と連破して、四大大会で初めて3回戦に勝ち上がった。さらに2月のデルレービーチ・オープン（米国）では3試合のフルセットマッチを勝ち抜いて、ツアー2度目の決勝に進んだ。決勝ではライリー・オベルカ（米国）に競り負けたが、世界ランクでトップ50の壁を破り、世界48位と自己最高位を更新した。

内山靖崇は19年ウィンブルドンで予選を突破して、シングルス本戦に出場した。15度目の挑戦でつかんだ四大大会で初めてのシングルス本戦だった。さらに楽天ジャパンオープン（東京）では予選を勝ち上がると、1回戦で第4シードのブノワ・ペール（フランス）を破り、2回戦も突破してベスト8に進出した。翌々



週の中国の大会ではチャレンジャー通算5勝目を挙げ、世界ランク87位としてトップ100入りを果たした。

ベテランの杉田祐一は復活の年だった。19年夏には一時世界ランクを270位台まで落としたが、ウィンブルドンで内山とともに予選を突破、10月のストックホルム・オープン（スウェーデン）で4強に進出。20年は全豪で2年ぶりに2回戦に進むと、2月のタタ・オープン（インド）でも準々決勝に進むなどして、世界ランクを80位台まで戻してきた。



楽天は初出場のジョコビッチが貫禄の優勝

2年ぶりに東京・有明に戻った19年の楽天ジャパンオープンには、世界ランク1位のノバク・ジョコビッチ（セルビア）が出場、五輪でまだ金メダルのない王者が、東京五輪のテニス会場となる有明で初めてプレーした。トップ10プレーヤーがジョコビッチだけだったという点を割り引いても、その強さが際だった「ビクトリーロード」だった。

1回戦から決勝までの5試合にすべてストレート勝ち、試合を重ねるほどに調子は上がっていった。準々決勝ではこの年の全豪でベスト4まで進んだリュカ・ピユ（フランス）をストロークで圧倒、2セットで合わせて3ゲームしか与えずに、わずか50分で一蹴した。準決勝では17年大会優勝のダビド・ゴファン（ベルギー）、決勝では予選勝ち上がりで勢いに乗るジョン・ミルマン（豪州）を相手に、攻撃的なプレーで先にブレイクを果たすと、その後は隙を見せずに堅実にサーブをキープして初優勝をたぐり寄せた。

日本勢では前年準優勝の錦織は欠場だったが、ダニエル太郎と予選を突破した内山が準々決勝に進んで大会を盛り上げた。05年からこの大会に出場する35歳のベテラン添田豪は、1回戦でヤンレナルト・シュトルフ（ドイツ）に逆転勝ちして、出場13回目で大会初白星を手にした。

日本勢決勝を制して 日比野が花キューピットオープン初優勝

広島に移って2年目となる花キューピットオープン2019のシングルスでは、ツアーで22年ぶりとなる日本勢の決勝対決が実現した。日比野菜緒は2回戦で17年大会優勝のザリナ・ディアス（カザフスタン）、準々決勝では18年大会優勝の謝淑薇（中華台北）と、歴代女王を連破して2年ぶりのツアー決勝進出。一方、土居美咲は1回戦で波形純理にマッチポイントを握られながら逆転勝ちして波に乗り、3年ぶりのツアー決勝に駒を進めた。決勝では、日比野が多彩なショットで土居の攻めを封じて、ストレート勝ちで4年ぶり2度目のツアー優勝を飾った。ダブルスでは



日比野／土居のペアが優勝して、日比野は単複2冠を達成した。日比野と土居はこの大会のポイントでシングルス世界ランクをともにトップ100に戻した。

女子ダブルスでは、1998年生まれの柴原瑛菜が台頭した。16年全米オープン・ジュニアのダブルスで優勝している柴原はベテランの青山修子

と組んで、19年10月の天津オープン（中国）でツアー初タイトルをつかむと、翌週のクレムリン・カップ（ロシア）も制して2週連続優勝を果たした。青山／柴原組は20年に入ってもサンクトペテルブルク（ロシア）でも優勝して、3月にはともにダブルス世界ランクを20位台とした。

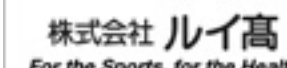


ウィンブルドン・ジュニア男子単で 16歳の望月が優勝

2019年ウィンブルドン・ジュニアの男子シングルスで、16歳の望月慎太郎が優勝した。中学1年から米国にテニス留学する望月は、ジュニアの四大大会では初出場だった19年全仏ではベスト4に進んでいた。ウィンブルドン・ジュニアのシングルスで日本勢が優勝するのは、1969年女子を制した沢松和子以来で、男子の優勝は初めて。また、19年9月に行われた16歳以下の男子国別対抗戦ジュニアデビスカップでは、望月が出場した日

テニスコート施設付帯製品の
RUI-TAKA

テニスポスト・テニス審判台・テニスネット・リブ
 付き埋設管・センター金具・スコアボード・スナッ
 チ・プロテクター（防風ネット）・スーパーバウン
 ダー（壁打ちボード）・コートブラシ・イーゼー
 イープ・イーゼードライ・イーゼーグリーン・アル
 ミ製スポーツベンチ・シェルトン・ついでて・セン
 ターベルト・シングルススティック・注意看板・
 コートナンバー・出入口マント・筆記台・コートロー
 ラー・ラインテープ・ルイフェンス（アルミ製防球
 フェンス）・ルイスチージ（アルミ製観覧席）



株式会社 ルイ高
For the Sports, for the Health

本 社	〒167-0052 東京都杉並区南荻窪 4-10-12 ルイ高ビル	TEL 03-3334-1101
東北支店	〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南 3-8-10-101	TEL 022-248-7171
中部支店	〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社 2-6-201	TEL 052-701-9521
関西支店	〒660-0054 兵庫県尼崎市西立花町 2-2-13 ルイ高ビル	TEL 06-6416-8858

ルイ高

検索



<http://www.rui-taka.co.jp/>



本が9年ぶり2度目の優勝を飾った。シングルス2試合、ダブルス1試合の3対戦で競う大会で、望月がシングルス6試合とダブルス5試合に出場し、11勝を挙げて優勝の立役者となった。

男女とも20歳がシングルスを制した全日本

19年三菱全日本選手権は、男子シングルスで20歳の野口莉央が制した。第6シードだった野口は2回戦、3回戦ではフルセットの戦いを強いられましたが、準々決勝、準決勝は快勝した。学年で一つ下になる第3シード清水悠太との「20歳対決」となった決勝では、持ち前のストロークを生かして、3種目すべてで決勝に進んで疲労の色濃い清水にストレート勝ちした。決勝に進んだ二人の合計年齢41歳2か月は最年少記録だった。野口は高校3年での出場以来、2度目の出場で初優勝。ベスト4には島袋将と望月勇希と大学生二人が勝ち上がった。

女子シングルスも20歳の本玉真唯が優勝した。第5シードの本玉は5試合中4試合がフルセットという勝ち上がりだった。決

勝では17年大会準優勝の秋田史帆の強打に押されて第1セットを先取されたが、第2セットからは粘り強いプレーで逆転勝ちした。WTA世界ランクを187位まで急上昇させた18歳の内藤祐希は、3回戦で前年準優勝の澤柳璃子を圧倒したが、準々決勝で本玉に競り負けた。

男子ダブルスは第1シードの仁木拓人／今井慎太郎組が2連覇、女子ダブルスは第2シードの森崎可南子／米原実令組が2年ぶり2回目の優勝、混合ダブルスは第2シードの清水／小堀桃子組が優勝した。



フェド杯はアウエーでスペインに完敗

新フォーマットになった国別対抗戦の2020フェド杯で、日本は上位12チームが競うファイナルの本戦出場権をかけてファイナル予選に出場、20年2月にアウエーでスペインと対戦した。大坂なおみが2年ぶりに代表に復帰した日本は、大坂と土居美咲をシングルスに起用したが、日本勢はスペインのクレーに苦しめら

一球が決めるドラマ

この道の先に
NIPPO

ボールのゆくえを固唾をのんで見守る観客。
コート上で繰り広げられるプレーは、最高のドラマ。
選手を支えるものは、己の力と周囲の声援、
そして、最高のプレーを演出するコート。
NIPPOは、感動と驚きを生み出す空間を、
最先端の技術で提供いたします。

株式会社 NIPPO

本社 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
TEL (03) 3563-6711 <https://www.nippo-c.co.jp/>

青丘学院つくば中学校・高等学校テニスコート



れた。第1日の初戦に登場した大坂は、コート走り回って返球するサラ・ソリベストルモのプレーに崩されてミスを重ねて自滅、第2試合でも土居がクレイ巧者のカルラ・スアレスナバロに敗れて2連敗。第2日も最初のシングルスで大坂に代わって出場した奈良くるみが、スアレスナバロにストレートで負け、シングルスに3連敗してファイナル進出を逃した。

デ杯は予選敗退、新型コロナ感染拡大でツアーが中断

デ杯は16チームが一堂に会して優勝を争う新方式となり、日本は19年11月にスペイン・マドリードで行われた初めてのファイナルに出場した。1次リーグの初戦でフランスと対戦した日本は、錦織に代わってエースを務めた西岡が、世界10位のガエル・モンフィスをストレートで破ってシングルスで1勝1敗とした。勝負のかかったダブルスでも、内山／マクラ克蘭組がフランスペアから第1セットを奪ったものの、直前のATPファイナルのダブルスを制しているフランスペアに逆転負けした。第2戦では西岡がジ

ョコビッチに完敗するなどシングルスで連敗して、決勝トーナメントに進めなかった。

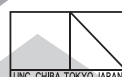
20年のファイナル予選に回った日本は、20年3月、兵庫県三木市のブルボンビーンズドームでエクアドルと対戦。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、試合は無観客で行われた。日本は第1日のシングルスで添田豪と内山が連敗を喫すると、最終日も第1試合のダブルスで内山／マクラ克蘭組がストレート負けして、予想外の3連敗で2年連続のファイナル進出を果たせなかった。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で、デ杯ファイナルの翌週からATP、WTAはツアー大会の開催見送りを決めた。その後ツアーの日程組み替えが行われ、8月からの大会再開の方針が出された。国内開催の楽天ジャパンオープンと花キュービットオープンの20年大会は中止となった。



(年齢、世界ランクは当時)

テニスネット・防風ネット・防球ネット・その他スポーツネット
及び修理のことなら、ぜひ鵜沢ネットにご相談、ご用命下さい。



UNC
FOR YOUR HEALTHY LIFE



鵜沢ネット 株式会社

ホームページ <http://www.uzawanet.co.jp>
メール uzawanet@uzawanet.co.jp
本社 / 工場 千葉県山武郡九十九里町不動堂 452-27
東京営業所 東京都江東区森下 2-4-3
TEL 03-3846-5585
【お問合せ専用番号】 TEL 03-3846-7317

リポビタン × DLS® 本格派スポーツブランドのメソッド導入

動くななら、
摂れ。



アスリートが喜ぶ特許技術※ アルギニン × シトルリン

※特許第5813919号、US8609735 B2

素早いエネルギーチャージ マルトデキストリン配合

アスリートが服用できる アンチドーピング認証取得

運動前のエネルギー補給

リポビタン
JELLY
For Sports



清涼飲料水（ゼリー飲料）

【ご購入はコチラ】



大正製薬ダイレクト



Amazon.co.jp

組織運営と事業報告

1. 組織運営

東京オリンピック・パラリンピックを控え2019年度より協会活動が新たなフェーズに入る区切りとして、2019年3月をもって4期8年協会運営を担ってきた畔柳信雄会長は退任し、組織運営において役員の世代交代、女性役員の登用が図られた。2019年度の本協会は、4月に就任した山西健一郎新会長の下、新たに任命された21名の業務執行理事と4本部体制で運営された。吉田和子氏の副会長就任を含め女性理事の人数も4名から7名に増えた。

就任に当たり山西新会長は、風通しの良い組織運営を通じ健全性と収益性を重視し、その基盤の上に組織としての成長性、つまり2018年3月に採択された日本のテニスの中長期戦略プランの具体化による普及・育成・強化を目指す経営方針を打ち出した。そして、スポーツ・インテグリティの今後一層のレベルアップを図りたいとした。

2019年度には理事会の開催は12月の臨時理事会を含め4回、評議員会は6月と年度末3月の2回、そして定例の常務理事会と本部長会議は事務所移転の準備で中止された6月を除き毎月開催され、業務執行に関する情報共有と審議が行われた。また、本協会の日常的な組織運営では、これまで通りボランティアやプロボノ（専門家による無償公益活動）を基本とした33の専門委員会等、そして21名の職員で構成されている事務局が重要な役割を果たした。2019年度は、分野別本部長、副本部長、委員会委員長、室長並びに委員・室員405名が2年任期で任命された。この本協会組織再編では、ガバナンス強化への対応としてコンプライアンス室を会長直轄に、またIR室を専務理事直轄とした。あわせて、専務理事直轄として新たにアスリート委員会設置準備プロジェクトが設置された。

2019年6月末、本協会事務所の新会館への移転が予定通り行われ、執務環境が向上し、併せて、情報セキュリティ強化とPC環境の改善も実現した。11月末には、前年度に続き、2019年選手・指導者部門表彰と兼ねたテニスシーズンを締めくくるJTA選手表彰ディナーパーティーを開催し、テニスファミリーとの絆を強めた。

年が変わった1月常務理事会では、2022年に迎える創設100周年記念事業の準備の態勢が再編され、また協会活動の新たなフェーズ入りに対応した人事組織体制の構築と財政基盤の強化に向けたマーケティング活動を先導する二つのプロ

ジェクト体制が立ち上げられた。しかし、年度末に発生した新型コロナウイルス感染拡大により、例年、年度末の3月に開催されてきた公認指導者向けのJTAカンファレンスは中止され、ホーム開催となったデ杯エクアドル戦は無観客試合として開催された。そして、令和元年第4回理事会と第2回評議員会は書面による同意方法（決議の省略）での開催を余儀なくされた。そして2019年度は3月30日からの事務所閉鎖、テレワークそしてウェブ会議を中心とした業務の実施という形での異常事態での組織運営となり、2019年度は幕を閉じた。

2. 事業運営

「普及」では国民が身近にテニスを楽しめる環境作りとテニス人口裾野拡大に向け、TENNIS PLAY & STAYの市区町村レベルへの浸透を推進した。また、学習指導要領の改訂に伴う小学校での体育教材としてのテニスの採用に向けた手のひらラケットによる取り組み「テニピン」を重点施策とする決議を行い、テレビやホームページを通じた推進活動を行った。そして、毎年恒例の「テニスの日」加盟団体、協力団体との共同事業としての普及活動を全国規模で行った。

テニスは障害の有無に関係なく参加できる代表的なスポーツといわれている。その意味で2019年度は車いすテニスに加え、その他の障がい者テニスとの接点を持った特筆すべき年となった。昨年秋のジャパンオープン会場ではITF国際車いすテニス大会が開催され国枝慎吾が優勝、また、日本車いすテニス協会が中心で運営した「車いすテニス体験会」が企画された。全日本テニス選手権会場では「車いすテニス交流イベント」を開催する一方、昨年5月には、日本ブラインドテニス協会、7月には日本ろう者テニス協会、10月には日本障がい者立位テニス協会の活動が常務理事会で紹介された。

「育成」では、日本テニスの中長期戦略プランの具体化として、中央と地方における育成分野での協力活動の第一弾として11歳以下ジュニアに照準を合わせたNTC体験合宿「Road to NTC合宿」を4年計画で開始した。さらに、全国プロジェクトの活動等を通じて、中央と地方とのジュニア育成協力活動を推進した。

「強化」では、2020東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、全種目出場とメダル獲得を目標に掲げ、ナショナルメンバーを中心とした選手強化プログラムを実施した。2024パリ五輪以降につながる特別ジュニア強化を代表とした選手強化プログラム「Road to Paris」を5年計画で開始した。ナショナルチームではデ杯チームが初開催となったファ

イナルズに出場したほか、フェド杯チームはワールドプレイオフで敗戦しファイナルズ進出を逃した。ジュニア国別対抗戦では、ジュニアデ杯チームが2度目の世界No1に輝き、そのメンバーの1人でもある望月慎太郎が日本初となるジュニア四大大会シングルス優勝をウィンブルドンで果たした。

主催競技会開催では、ジャパンオープン、ジャパンウイメンズオープンなどを通して世界レベルのテニスをテニスファンに提供し、両大会の主催を通じて日本テニスの発展に多面的な貢献を行った。ジャパンオープンには、10年ぶりとなる世界ランキング1位の選手、ノバク・ジョコビッチが来日、見事にシングルス優勝を果たし、観るスポーツとしてのテニスをテニスファンに満喫させた。1週間の大会期間中の来場者は103,028名を記録した。併せて、全日本テニス選手権、テニス日本リーグに代表される国内大会を開催した。同時に、全日本ジュニア選手権、ジャパンオープンジュニア、ワールドスーパージュニアに代表されるジュニア大会、全日本ベテラン選手権、全国レディース等、生涯スポーツとしてのテニスの競技会を主催した。

本協会の公認指導員及び審判員の養成及び資格認定事業は、コーチング委員会を中心に日本スポーツ協会公認スポーツ指導者認定事業、本協会独自制度である公認S級エリートコーチの養成講習会及び検定」を実施した。国際審判員・レフェリー養成事業としては、ITF Level2 Schoolを東京で開催し、国内審判員養成・拡大事業として認定講習し、C級審判員、B級審判員、B級レフェリー、B級チーフアンパイアの養成を行った。

テニス選手の登録、ランキングの管理・運営においては、JPINシステムを活用し、地域・都府県テニス協会と連携してジュニア選手登録を実施し、併せて、ジュニア選手の競技環境向上を目的としたジュニアJPINの本格運用を開始し、12月にJTAジュニアランキングの公開を開始した。

東京オリンピック・パラリンピック競技会場としての有明テニスの森公園の改修工事が進み、有明コロシアムの改修、第一ショーコートと屋内テニスコートが完成をみた。これは、我が国のテニスインフラ拡充という意味において歴史的な意味を持ち、日本テニスの統轄団体としての本協会は、生涯スポーツ、競技スポーツ、観るスポーツそしてまた国際スポーツとしてのテニスの将来を見据え、オリンピック・パラリンピック後の有明テニスの森公園の有効活用に向け検討を開始し、ミュージアム委員会を中心としてテニスミュージアム設置に向けた活動を行った。

グローバル化対応では、日本テニス協会（JTA）とフラン

ステニス連盟（FFT）は9月、強化された新相互テニス協力覚書の調印への対応を行った。また、9月に開催された国際テニス連盟総会にて本協会の川廷尚弘常務理事が理事に選出され、その直後のアジアテニス連盟理事再任と共に、世界そしてアジアとの本協会の関係が強化されることとなった。

「スポーツ・インテグリティ確保」においては、選手、指導者、審判員、トレーナー等へのコンプライアンス関連情報の提供と研修、試合におけるフェアプレイ向上運動、更には熱中症対策を含む試合における安全対策、アンチ・ドーピング活動に引き続き力を入れた。試合における安全と安心をスポーツ・インテグリティ推進活動に含め、冊子「暑熱下のヒートルールとメディカルルールの運用」を作成し配布した。また、東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、医事委員会を中心に観客向けの暑熱対策の調査を行った。

当協会は、ガバナンスコード自己説明及び公表と適合性審査に向け、日本スポーツ協会派遣メンターである弁護士の助言を受け活動を開始した。2012年4月の公益法人化以降2度目となる内閣府からの組織運営及び事業活動の状況に関する立ち入り調査が2020年2月21日に行われ、指摘事項なしの講評を受けた。

テニス環境等実態調査では7年ぶりの基礎調査を行い、テニスに関する基本情報を提供し、公式ホームページ及びIR室と広報委員会活動を通じて協会活動情報を発信し、開かれた協会活動を心掛けた。また英文ホームページを通じた海外向け情報提供を行うと同時に、国際テニス連盟等の選手向けのインテグリティ関連情報の日本語訳を行い、本協会ホームページを通じて発信した。

新年度においても、加盟団体である地域・都道府県テニス協会との対話に努め、日本プロテニス協会、日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、テニス用品会との定期意見交換や情報共有を継続した。また、特に東京オリンピック・パラリンピックへの準備、スポーツ・インテグリティ確保、ダイバーシティ推進施策において、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会そして日本アンチ・ドーピング機構、日本スポーツ仲裁機構等との情報共有に努めた。12月に開催された「JOC-NFインテグリティ教育推進チーム会議」にて本協会の選手・指導者教育インテグリティ教育事例の紹介がなされた。

2019年度の本協会公益目的事業の実施に必要とされる規程の制定や改正は、職務権限規程の改正、事務局規程の改正、デ杯・フェド杯賞金管理規程の制定の3つであった。

以上

2019年度日本テニス協会活動日誌

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	国際
4月	10日 常務理事会・本部長会議	9～13日 MUFG Jr(名古屋)	1～6日 Wjr男子AO予選(マレーシア) 8～13日 Wjr女子AO予選(マレーシア) 8～13日 JrDCAO予選(タイ) 15～20日 JrFCAO予選(タイ) 20～21日 FC WGII PO オランダ戦(大阪)
5月	17日 常務理事会・本部長会議 28日 2019年度通常理事会	16～19日 全国選抜Jr(千葉)	26～6/9日 全仏
6月	18日 2019年度定時評議員会 18日 2019年度表彰伝達式 21日 常務理事会・本部長会議 24日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会)	1日 悠遊テニス会(東京) 25日 会長就任パーティー	
7月	21日 公認S級エリートコーチ養成講習会の再検定(NTC) 24日 常務理事会・本部長会議	18～21日 全日本都市対抗(鹿児島) 27～30日 全小(東京)	1～14日 全英 5～13日 ユニバーシアード(イタリア)
8月	21日 常務理事会・本部長会議	2～8日 インターハイ(宮崎) 8～17日 全日本Jr(大阪) 7～21日 全日本学生(岐阜) 17～23日 グラスホバージュニアテニスカン プ(佐賀) 18～24日 全国中学生(広島) 21～23日 全国高専(山口) 23～25日 ビジネスバブル大会(愛媛)	5～10日 ワールドJr決勝大会(チェコ) 23～29日 日韓中Jr(中国) 26～9/8日 全米
9月	5日 山西会長 宮城県テニス協会 懇談会 20日 常務理事会・本部長会議 24日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会)	17～20日 全日本東日本大会(岩手) 17～20日 全日本西日本大会(兵庫) 21～24日 スポーツマスターズ 23日 テニスの日 29～10/2日 国体テニス競技(茨城)	9～15日 WOMEN'S OPEN(広島) 16～22日 東レPPO(東京) 24～29日 JrDC・FC決勝(アメリカ) 24～27日 ITF AGM(ポルトガル) 30～10/6日 ジャパンオープン(東京)

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	国際
10月	10日 山西会長 北海道テニス協会 懇談会 17日 常務理事会・本部長会議	1～9日 全日本ベテラン(名古屋・博多) 4～6日 全国実業団A大会(広島) 9～15日 大学王座(松山) 15～16日 ピンクリボン全国決勝大会(神奈川) 18～20日 RSK Jr(岡山) 23～11/3日 全日本選手権(東京) 29～11/3日 U15中牟田杯選抜Jr(福岡)	14～20日 スーパーJr(大阪・靱) 22～27日 ジャパンオープンJr(名古屋) 27～11/3日 WTA Finals(中国)
11月	2日 第15回プロフェッショナル教育研修会①(東京・有明) 14日 常務理事会・本部長会議	6～9日 全国レディース(東京) 9～12日 ねりんピック(和歌山) 23～12/1日 学生室内(大阪・江坂) 30日 JTAディナーパーティー(東京)	11～17日 ATP Tour Finals(英国) 18～24日 DC Finals(スペイン)
12月	8～9日 公認指導者講師競技別全国研修会(NTC) 8日 第15回プロフェッショナル教育研修会②(NTC) 10日 常務理事会・本部長会議 14～15日 公認S級エリートコーチレベルアップ研修会(NTC) 16日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会) 17日 臨時理事会	7日 悠遊テニス会 5～8日 日本リーグ1st(神奈川・兵庫) 12～15日 全日本Jr選抜室内(兵庫)	
1月	10日 常務理事会・本部長会議 11～13日 公認B級審判合同講習会(大阪) 13～15日 公認コーチ3 前期専門科目講習会及び検定会(NTC) 27～28日 公認教師(認定校)専門科目講習会(NTC)	15～19日 日本リーグ2nd(神奈川・兵庫)	14～27日 全豪
2月	13日 常務理事会・本部長会議 18～20日 公認コーチ3 後期専門科目講習会及び検定会(NTC)	7～9日 日本リーグ決勝(神奈川) 12～23日 全日本室内(京都)	6～7日 DC 2020 Qualifiers エクアドル戦(兵庫) 7～8日 FC 2020 Qualifiers スペイン戦(スペイン)
3月	5日 常務理事会・本部長会議 12日 2019年度通常理事会 19日 2019年度臨時評議員会	2～3日 JTAカンファレンス(NTC)(コロナウイルスの影響により中止) 20～26日 選抜高校(福岡)(コロナウイルスの影響により中止)	

2020年度事業方針

2019年度は、新会長就任を伴った新役員体制による協会運営となり、健全性・収益性・成長性という新たな組織運営指針の下、2018年3月に採択された日本テニスの中長期戦略プランの具体化が開始される年となった。また、東京オリンピックに向け暑熱対策を含む選手強化策が実施され、2019年6月には新国立競技場前に建設されたJapan Sport Olympic Squareへの協会事務所の移転により本協会の執務環境が改善された。そして同じ月に中央競技団体向けのガバナンスコードが発表され、ポスト東京2020の協会運営に与る課題が明確化された年ともなった。

本協会は公益法人化して8年が経過し、この間、事業規模は拡大し、またスポーツを取り巻く環境も大きく変化した。2022年には本協会創設100周年を迎えることから、ガバナンスコード対応の初年度となる2020年度は、今後の本協会に与る課題への対応準備の年となる。

その準備の第一課題が財政基盤の確立である。東京オリンピック・パラリンピック競技会場となる有明テニスの森公園の改修は、主催大会運営でのコスト増という形で想像を超えた協会財政への負担となり、2019年度赤字決算に続き、新年度も赤字予算の編成を余儀なくされた。同時に、本協会財政が競技会開催に大きく依存する構造となっている事実も明確となった。こうしたことから、2021年度からの財政運営健全化を目的に、2020年度には財政基盤強化をJTAオフィシャルスポンサー制度の展開、寄附制度の拡充、各種登録費の見直し、さらには協会事業構造の見直しを通じて行う。そのため、2020年1月に本協会はマーケティングプロジェクトと人事プロジェクトを立ち上げた。

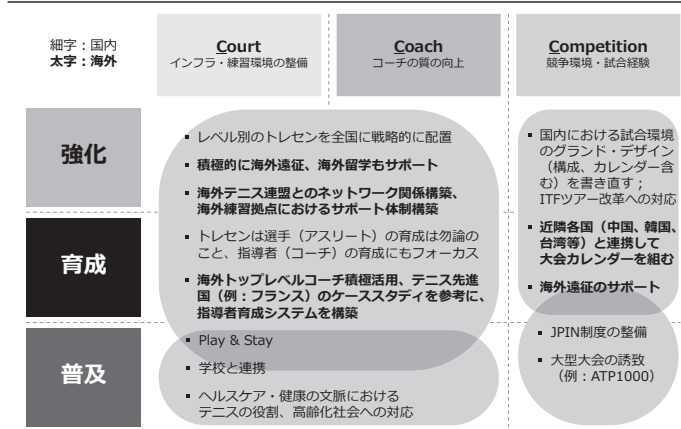
新年度政策面での柱は、引き続き普及・育成・強化と

るが、これまでと異なり、この施策は協会組織運営の3指針の一つである「成長性」、日本の中長期戦略プランにある「3つのC」、すなわち、Court（インフラ・練習環境）、Coach（コーチの質）、Competition（競争環境・試合経験）の整備とリンクさせた日本テニスの拡大再生産、さらには理念開発を伴った100周年事業との有機的関連性を確保して展開する。そこでは、政府の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った形での「テニス・レガシー」構想の実施に乗り出すと同時に、生涯スポーツ、競技スポーツ、観るスポーツ、そして国際スポーツとしてのテニスの将来を見据えて、2020年以降の有明テニスの森公園の有効活用に向けた有明レガシー活動を継続する。

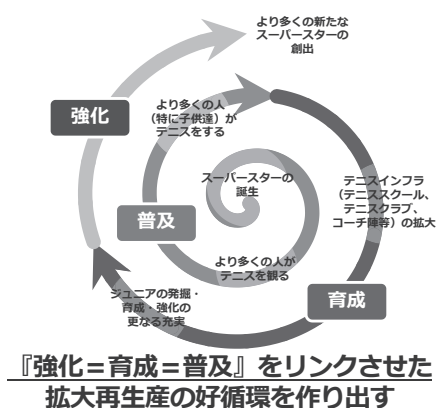
「普及」では、国民が身近にテニスを楽しめる環境作りとテニス人口裾野拡大に向け「Tennis Play&Stay」（テニス・プレー・アンド・ステイ）の市区町村レベルへの浸透を継続して推進する。これに加え、小学校学習指導要領が改訂され小学校授業でテニスが教材として採用される途が開かれたことから、ハンドラケットとスポンジボールを使用したテニス型授業「テニピン」を推進する。併せて、健康増進スポーツとしてのテニスの社会的認知の高まりを背景に、成人向けテニス導入・普及プログラムを支援して振興をする。永年の懸案であった日本中体連加盟問題も、関東及び中国ブロックの地域中体連加盟の決定を受け、2021年度のテニス競技の日本中体連加盟と全国中学校体育大会への参加の準備を継続する。そして、ジュニアJPINに続きベテランJPINの立ち上げに向けた準備を開始する。

「育成」では、全国プロジェクトの活動等を通じて、中央と地方の協力活動を推進する。また、重要施策として、全国

日本のテニスの中長期プラン ～全体像～



どうやって戦略プランを策定し、それを実行に移すのか？



統一ジュニアランキングの導入によるジュニア選手のフェアな競争環境の構築を目的としたジュニアJPIN制度の本格運用を開始する。そして、味の素ナショナルトレーニングセンターを一層ジュニアレベルにも活用する方向を睨み、中央と地方との育成分野での協力活動の第一弾として、昨年度開始された11歳以下の男女ジュニアに照準を当てた「Road to NTC」体験合宿を継続し、強化とより連携した次世代選手の発掘と育成を行う。

「強化」では、2020東京オリンピック・パラリンピックでの全種目出場とメダル獲得を目標に掲げ、ナショナルメンバーを中心とした選手強化プログラムを継続する。また、2024パリ五輪以降につながる「修造チャレンジ」を含む特別ジュニア強化事業の充実化を図る。そして、中長期戦略プランに基づく競技会環境の向上に努め、国際トーナメント環境の変化に留意して、国際トーナメントの国内開催の維持と発展に努め、国内競争環境の改善を最大限活用する。

主催競技会開催では、ジャパンオープン、ジャパンウイメンズオープンなどを通して世界レベルのテニスをテニスファンに提供し、両大会の主催を通じて日本テニスの発展に多面的な貢献を行う。併せて、全日本テニス選手権改革を含めた国内大会の振興に努める。

本協会の公益目的事業として公認指導者及び審判員の育成及び資格認定がある。年度事業として日本スポーツ協会公認スポーツ認定事業のテニス公認コーチ養成講習会、検定会、研修会及び指導者のスキルアップと、本協会からの情報提供を目的としたJTAカンファレンス2021を実施すると共に、国際審判員、レフェリー、アンパイアの養成・拡大事業を継続し、併せて、公認審判員管理登録のIT化に着手する。

「スポーツ・インテグリティ確保」においては、選手、指導者、審判員、トレーナー、役職職員等へのコンプライアンス関連情報の提供と研修、試合におけるフェアプレイ向上運動、更には熱中症対策、そしてJTA認定テニストレーナー制度の新年度からの運用開始等を通じて、試合における安全対策に引き続き力を入れる。また、オリンピック・パラリンピック競技種目であるテニスの中央競技団体として、今一度、代表選手だけでなくテニス選手及び関係者に対してアンチ・ドーピングの徹底を求めていく。これらの施策の効果的な実施には、本協会が持つeラーニング環境の活用とガバナンス

コードへの対応がカギとなる。

グローバル化対応では、2019年9月にフランステニス連盟（FFT）との間で調印された新相互協力覚書の下での協力を2024パリ五輪を視野に継続する。また、福井専務理事の2019年6月の日本オリンピック委員会専務理事及び11月の東京オリンピック日本選手団団長の就任、そして2019年9月の川廷尚弘常務理事の国際テニス連盟理事の選出と12月のアジアテニス連盟理事の再選により、本協会は内外のスポーツ界での地位と責任を十分認識した協会運営を心掛ける。

2020年度もテニス環境等実態調査を行いテニスに関する基本情報を提供し、公式ホームページ及びIR室と広報委員会活動を通じて協会活動情報を発信し、開かれた協会活動を推進する。また国際テニス統轄団体が発信する「インテグリティ関連情報」を公式ホームページを通じて日本語で提供すると共に、英文ホームページを通じて海外向け情報提供活動を拡充する。

JTA創立100周年記念事業では、その活動を理想とする法人像に向けた新たなスタートとして位置づけ、基盤整備、資産継承、普及活動をテーマに2022年に向けた活動を開始し、併せて、財政面での健全性の確保につながる施策も組み合わせて展開する。そのうち、資産継承事業においては、「テニスミュージアム設立に関わる寄附」募金活動の集大成としてテニス史資料のアーカイブ化とテニスミュージアムの設立に向けた準備を行う。

協会事業活動において、加盟団体との協働と協力団体との連携は欠かせない。2020年度においても、加盟団体である地域・都道府県テニス協会との対話に努め、日本プロテニス協会、日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、テニス用品会との日本テニス連合での定期意見交換、全国学生テニス団体を含む協力団体との連携を継続する。さらに、2018年12月に設立された全日本男子プロテニス選手会との対話も開始する。こうして2020年度は、東京オリンピック・パラリンピック開催年でもあり、またガバナンスコード対応の初年度でもあることから、本協会にとっては従来にも増して内閣府、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本スポーツ協会そして日本アンチ・ドーピング機構等関連団体との連携やコミュニケーションが求められる年となる。

北海道テニス協会

- ◆会長：長澤 茂嗣 ◆設立年：1938年
- ◆住所：北海道札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1
- ◆メール・アドレス：hta@oregano.ocn.ne.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

令和初年度も加盟協会等と協力し普及・強化・大会運営を行いました。競技力向上については14歳以下のジュニア選手に重点を置き強化を行うこととしました。鈴木貴男プロの協力をいただき、鈴木貴男、小畑沙織、内山靖崇を超える選手を育てることを目標に掲げ、目先にとらわれずに中長期の活動としてスタートしました。普及事業は日本テニス協会S級コーチをお招きし、セミナー等を行いました。また、テニス指導方法及びP&Sをより多くの協会・指導者に提供出来ないか検討を行っています。令和2年になってからの大会を除き、各種大会を滞りなく行いました。特に北海道ベテラン選手権には全国より多くの選手が参加していただきました。北海道の爽やかな気候とともに、毎年の大会運営のご評価をいただいたものと感謝しております。

令和2年度事業計画について

例年通りの事業計画を策定しました。しかし、コロナウイルス感染症に伴い、各種事業・大会の中止延期を余儀なくされています。日本テニス協会・スポーツ庁の指導・指針に従い感染防止を最優先としています。また、加盟協会の収支を考慮し分担金の減額なども行いました。

中学校テニスについて。前年度末に全国中学校連盟より加盟について新たな条件が提示され、加盟が難しい状況となりました。しかし我々としては多くの小中学生にテニスを楽しむ機会を提供することが協会の使命との立場に変わりはありません、加盟協会との協力で機会を増やしていきたいと考えております。

東北テニス協会

- ◆会長：長井 健 ◆設立年：1983年
- ◆住所：秋田県秋田市八橋運動公園1-5(秋田県スポーツ科学センター3F)
- ◆メール・アドレス：jimukyoku@tohoku-ta.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

令和1年度東北地域では全国大会開催はありませんでしたが、新規開催大会として第1回みちのくベテラン選手権大会（D大会）が山形県天童市にて、400ドローの参加を得まして開催しました。次年度以降もこの大会が東北地域の定期大会として定着することを期待しています。又、継続事業のジュニア強化では北東北・南東北のジュニアキャンプ強化を6月に実施。

東北各県でも定番事業となったTENNIS PLAY&STAYも各種教室やイベントに合わせ実績を積み重ねています。夏場の各大会で

の熱中症対策にも工夫をして、防止に取り組んで効果を上げています。

令和2年度事業計画について

令和2年度の事業計画は、継続事業と新事業の計画を立てておりましたが、新型コロナウイルス感染防止対策により4月～7月の各種大会・事業がほとんど中止や延期に追い込まれて、今後どの程度の大会・事業を実施出来るか見通しがつかない状況です。しかしながら、実施可能な事業についてはコロナイベント開催ガイドラインに添ってしっかりと対応していきます。

北信越テニス協会

- ◆会長：宮崎 甚一 ◆設立年：1975年
- ◆住所：富山市三熊4-2 池多テニスクラブ内
- ◆メール・アドレス：Masa.yamamoto@hb.to1.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

当協会では常任理事会を年2回以上、ジュニア委員会を3回以上開催し、JTAからの指示確認、情報交換フランチイズムの確認、JTA各委員会、評議員会への出席依頼など情報交換に努めています。

3回目となる海外合宿遠征を100万円の補助金付きで実施いたしました。長期の合宿につき引率コーチに苦勞しております。(今年度は中止を決定済み) 一般北信越は215人・組 北国ベテラン、北信越ベテラン、軽井沢ベテラン3大会で、2118人・組の参加があり、主管県関係者に感謝しています。

ワンコインは年度で140万円、最初からの合計で180万円になりました。(今年度は一般、ベテラン大会とも中止)

地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

長野県

2027年長野国体の会場が松本市（浅間温泉庭球場公園&松本平広域公園）に内定し、両会場の施設・設備の整備に取り掛かっております。

新潟県

JTAのテニスP&S特別補助金を活用し、各市協会がP&S普及に活発に取り組めるよう独自の助成金を予算化しています。

2019年5月新潟トレセンとしてJTAから承認され東日本ブロックに加入できました。

富山県

富山県スポーツフェスタが5月にあり、P&S（レッド）イベントでご家族を中心に350名の参加

石川県

今年度より県主催のジュニア大会のほとんどを作業の効率化が図れるネットエントリーといたします。今後一般大会にも運用する予定です。

福井県

福井しあわせ元気国体から2年が経過しようとしています。昨年は国体を運営した仲間が集まり、国体記念大会を開催しました。

関東テニス協会

- ◆会長：寺澤 辰磨 ◆設立年：1922年
- ◆住所：東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 朝日生命幡ヶ谷ビル2階
- ◆メール・アドレス：kta-e.to@abeam.ocn.ne.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

当協会の活動の中心は3本部11委員会であり、隔月開催する常務理事会で十分な打ち合わせをして業務を遂行しております。

東京オリンピック開催にあたり、主要会場である有明コートが当分使用できないため、大会は各都県で会場を確保し、万全な運営を期しました。

当協会の関東周辺1都7県の共通する課題を円滑に運営し、テニスの普及、発展に寄与するよう配慮しています。

特に力を入れたことは、

- (1)関東オープンテニス選手権大会の運営で、日本のテニスと共に93回を迎えました。特に注目することは、ベテランの参加者の増加で、高齢者への対応も痛感しました。
- (2)普及と強化、特にジュニアの普及・強化に活動の中心を置き各都県で「プレイ&ステイ」普及活動を行い、更に強化では各大学の協力を得て合同練習で成果を上げています。
- (3)全体の普及では、実業団大会の運営で、各都県の協力を得て活性化に力を入れました。

また、国体予選、都市対抗などの大会も各都県の協力を得て地域テニス普及と活性化に努めました。

東海テニス協会

- ◆会長：石川 清 ◆設立年：1929年
- ◆住所：名古屋市千種区菊坂町2-2シャトレータカギ3A
- ◆メール・アドレス：toukai-tennis@mte.biglobe.ne.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

東海テニス協会では一般大会9、ベテラン大会3、ジュニア大会8、実業団大会2、年間22大会を主催、これは前年に対して3大会ふえましたが計画通りに完了しました。参加者は延べ5,330人と前年に比べ106%となりました。

強化事業としてはジュニア育成強化合宿を各県持ち回りで継続開催しています。今年度も岐阜で開催し選手強化を図りました。またナショナルチーム指導者講習会に指導者を派遣し資質・技術の向上に寄与することを継続しています。

協会運営面では4県の情報交換を活発にすべく常務理事会の会議

体を開催することとしました。

令和2年度に開催される予定であった全国都市対抗テニス大会（三重）、ねんりんピックぎふ清流大会、全国中学校テニス大会（愛知）という全国規模の大会に向けて準備を進めてきましたが残念ながら新型コロナウイルス拡大により中止、延期を余儀なくされる結果となっています。

関西テニス協会

- ◆会長：辻 晴雄 ◆設立年：1922年
- ◆住所：大阪府大阪市西区靱本町2-1-14 靱テニスセンター内
- ◆メール・アドレス：kansaita@kansaita.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

関西テニス協会では、年間35大会を開催していますが、ベテラン大会の参加者数が年々減少していることが課題となっています。令和1年度も強化・育成・普及の3本柱を中心に活動を行いました。特に強化は、中学生年代の男女約10名ずつを対象に、スポーツ医・科学委員会と協働で強化練習会を年間28日開催し、そこで得られた情報を、選手・保護者・ホームコーチとも共有し、日々の練習の効率性を高めるような取り組みを行い、その結果として全日本ジュニアU14では、優秀な成績を残しました。

ジュニア各大会に於いてグッドマナー賞を設け、マナー向上を常に啓蒙しています。

令和2年度事業計画について

前年度に引き続き、強化・育成・普及に力を入れて活動する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の観点から各大会が中止となっており、8月下旬より感染拡大防止対策を行いながら徐々に大会を開始していきます。強化に於きましても予定を大きく変更せざるを得なくなりましたが、強化はスポーツ医・科学委員会と連携を取りながら、今年度も選手のメディカル・コンディショニングチェックをクラウドシステムを用いて記録と解析方法について実地検証を継続して行ないます。また、選手のテニスプレー中の活動度、心活動をビデオカメラ、ウェアラブルセンサー等を用いた解析の検証を、大阪大学、企業とも連携して行ないます。

地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

大阪府テニス協会：2019年度は、ジュニア大会を年間28大会、一般ベテラン大会を年間11大会開催。

大阪トレーニングC、育成強化練習を行い、トレセンではメディカル・パフォーマンス計測を実施しました。普及・指導ではP&Sにおいて、研修会・教室のコーチ現地派遣を行いました。講習会等については、コーチ1養成講習会（実技指導・講義）及び大阪府スポーツ指導者研修会（講義・実技）を実施しました。2020年度は、8月によりやくジュニア大会の池村杯が縮小の上、実施される予定です。今後の大会については、新型コロナ感染拡大状況に関する政府・自治体等関係機関の指示に従うこととなり大会開催は

未定です。

兵庫県：当テニス協会では30を超える県内事業のほか、ノアチャレンジャーや兵庫国際ジュニア等の国際大会、デ杯、フェド杯、全日本選手権西日本大会、日本リーグ等の運営協力など幅広い活動を行っております。

京都府：京都府テニス協会の活動として特筆すべきは、「島津全日本室内テニス選手権大会」と「GSYUASA OPEN」の2大会の国際大会を開催していることです。「島津全日本室内テニス選手権大会」は、2018年までは男子ATPチャレンジャー大会として行ってきましたが、2019年から女子のITF WORLD TOUR大会として行っています。

奈良県：新型コロナの影響を受けて3月の中旬までは例年の活動を継続できていたが、4月以降全ての活動が止まっています。今後は8月以降、コロナ対策を取りながら順次活動の再開にむけ準備を進めています。

和歌山県：新型コロナウイルス感染症のため、年度当初より各大会を中止してきましたが、万全の対策を取りつつ、8月のジュニア大会より大会開催を再開します。今年度より、令和5年度に開催予定である第31回日・韓・中ジュニア交流競技会に向けた準備も始まります。

中国テニス協会

- ◆会長：安東 善博 ◆設立年：1977年
- ◆住所：広島市東区光町2丁目9-30竹本ビル305
- ◆メール・アドレス：office@chugoku-ta.jp

令和2年度事業計画について

I 活動方針

中国テニス協会は重点項目を基本として関係スポーツ団体との連携を密にしてテニスを見る人テニスをする人テニスを支える団体に対して中国テニス協会の6つの委員会（行事委員会・普及振興委員会・ジュニア委員会・医科学委員会・ベテラン委員会・広報委員会）を中心にそれぞれのニーズに迅速かつ的確に対応してまいります。

II 重点項目

①ジュニア選手育成強化と全国ジュニア登録制度

「ジュニアJPIN」の本格運用とトレーナー制度の導入

ジュニア委員会が提唱する「目指せ世界チャンピオン」を合言葉に世界に通じる選手の育成強化と将来を担うジュニア選手の競技環境改善のインフラとして期待される全国ジュニア登録制度ジュニアJPINの運用を行って参ります。

又、試合における安全確保の一環としてJTA認定トレーナー制度の充実を計って参ります。

②TENNIS P&Sを中心とした普及活動

公益財団法人日本テニス協会の事業方針のTENNIS P&Sを中

心とした普及活動を中国テニス協会もテニス人口減少の中テニス愛好者の増大を目指しジュニアからベテランまでの幅広い年齢層に行ってまいります。

③各県テニス協会、関係諸団体との連携及び組織強化の推進

中国テニス協会は目的達成のための事業遂行に当たり当協会の各委員会と各県テニス協会、関係諸団体との連携を密にして幅広い活動を行ってまいります。

④主催主管大会の充実

主催大会主管大会も各関係諸団体と連携をしてより充実した大会にまいります。

⑤セルフジャッジ5原則キャンペーンの推進

フェアプレイはスポーツの原点といえる為テニスでのセルフジャッジ5原則を中国テニス協会はプレイヤーの皆様・保護者・指導者・大会主催者の皆様にチェアアンパイアがつかない大会で正しいセルフジャッジを目指してまいります。

上記の項目を2020年度の活動方針と重点項目として取り組んでまいります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染防止による自粛活動により多くの事業を中止せざる負えない状況になりました。

事業再開時には新型コロナウイルス感染防止ガイドラインに沿って活動していきます。

各県テニス協会関係者をはじめとして関係諸団体の皆様の厚いご理解とより一層のご支援をお願いします。

中国テニス協会 理事長 津島則之

四国テニス協会

- ◆会長：大塚 岩男 ◆設立年：1950年
- ◆住所：愛媛県松山市雄郡2丁目9-25第1石原ビル106
- ◆メール・アドレス：ehime-ta@nifty.com

平成31年・令和1年度事業活動について

四国テニス協会では、4県の組織が連携・協力して更なるテニスの発展へ向けた活動を推進し、競技力向上と、生涯スポーツとしてのテニスの振興が実を結ぶように努めてきました。愛媛県では4月にITF愛媛国際オープン、8月に全国実業団対抗テニス大会、国体四国地域ブロック予選を実施しました。特に、茨城国体においては、成年男子2位、成年女子6位入賞を果たし、総合成績で4位という成績を残しました。香川県で四国選手権、徳島県で実業団ビジネスパル四国予選、高知県で全日本都市対抗戦四国予選、四国オープンベテラン選手権を実施しました。また、四国地域全体としてP&Sへの積極的な取組を行い、ジュニアの育成・強化を目指して、地域合宿等を実施しました。

令和2年度事業計画について

昨年度に引き続き、競技力向上と生涯スポーツとしてのテニスの振興を目標に事業を計画しております。愛媛県では4月にATPチ

チャレンジツアー、9月に日本スポーツマスターズ、10月に全日本学生王座決定試合の他、全日本都市対抗四国予選、四国オープンベテラン選手権、香川県では国体四国地域ブロック予選、徳島県では四国テニス選手権大会、高知県では、全国実業団対抗テニス大会（BP）四国予選と多くの大会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全ての大会が中止となりました。また、四国地域全体を通して、P&Sの取組を充実させるために、各県で「テニピン」を購入し、指導者講習会の開催に向けて準備しています。

地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

四国テニス協会の組織としては、各委員会が各県の責任者で構成されており、それぞれの委員長が中心となって、JTAと提携して多面的に活動しています。役員会においては常に建設的な発言があり、何事にも前向きで積極的に協力していくチームワークの良さがあります。

愛媛県では、これまで2回実施したITFユニ・チャームトロフィー 愛媛国際オープンをATPチャレンジツアーに格上げし、実施に向けて準備しています。香川県では、2年後の全国中学校総合体育大会の開催に向けてあり、計画的に県外遠征を実施し、選手強化に力を入れたいと考えています。徳島県では、引き続きジュニアの育成・強化に努めて参ります。高知県では、2022四国インターハイに向け、日本テニス協会S級エリートコーチを招聘して中学生・高校生への強化事業を本年度も継続して実施します。

九州テニス協会

- ◆会長：本村 道生 ◆設立年：1925年
- ◆住所：福岡市中央区薬院2-14-26 東洋薬院ビル5階
- ◆メール・アドレス：qsyu-tennis.jimu@mountain.ocn.ne.jp

平成31年・令和1年度事業活動について

- ・福岡国際女子テニス2019、久留米市ユニー・エス・イーカップ国際女子テニス2019、九州毎日テニス選手権、全九州クラブ対抗、九州テニス選手権、九州ジュニアテニス選手権等、18大会を開催しました。
- ・9月には、JTA派遣のNTCコーチによる12歳以下ジュニア合宿が開催され、九州各県から選抜された選手たちが指導を受け、貴重な経験を積みました。
- ・10月に開催された全日本ベテランテニス選手権は、2016年より名古屋 東山公園テニスセンターと福岡 博多の森テニス競技場での2箇所での開催になりましたが、2017年より35、45、55、65、75、85歳以上の種目が福岡で実施され、2018年から日本商業開発（株）全日本ベテラン選手権としてさらに充実した内容で開催されました。
- ・10月末から開催の、U15全国選抜ジュニア選手権（中牟田杯）は今回で38回を迎え、ジュニアデビスカップ及びジュニアフェ

ドカップ代表候補選手選考会として、また、全国各地域代表選手が集う全国大会としての態勢を整えて開催しました。

- ・テニス人口の裾野拡大を目指した普及活動として、各県協会がTENNIS P&Sに積極的に取り組み、カラーボール大会を実施しました。沖縄県では今後推進されていく「テニピン」の講習会が8月に実施されました。
- ・2020年1月には、JTA医事委員会主催の指導者&ジュニア選手保護者を対象とした「医科学セミナー」が開催され、講師、医科学関係者と科学的根拠に基づいた情報を共有することが出来ました。

令和2年度事業計画について

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、計画されていた2020年3月の全国選抜高校大会、4月の九州毎日選手権、福岡国際女子テニス2020、5月の全国小学生九州予選（大分）、久留米市ユニー・エス・イーカップ国際女子テニス2020、九州選手権、6月の全国実業団九州予選、7月の九州ジュニア選手権（宮崎）、国体九州ブロック大会（本年は沖縄）、グラスホパージュニアテニスキャンプ（佐賀）、九州毎日少年少女選手権、10月の全日本ベテラン選手権、鹿児島国体（鹿児島）等九州地域の主要大会、事業及び各県の一般、ジュニアの全国大会予選等 ほとんどの大会や事業が中止もしくは延期に追い込まれました。
- ・当協会としましては、今後の情勢を踏まえ、JTAをはじめとした関係各所との情報交換、連絡を密にとり、感染拡大防止についての正確、迅速な情報発信を行いつつ、感染症対策を踏まえてJTA「公式トーナメント再開ガイドライン」に則り大会や事業の再開に向け準備を整えてまいります。

地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

第43回全日本都市対抗テニス大会

- ・燃ゆる感動がごしま国体の前年で、リハーサル大会として、第43回全日本都市対抗テニス大会が、主管鹿児島県テニス協会と2019年7月18日～21日、鹿児島県立鴨池庭球場において開催され、全国の代表各都市チームが熱戦を展開しました。

インターハイ南部九州高校総体2019テニス競技

- ・インターハイ南部九州高校総体テニス競技（主管：宮崎県テニス協会）が、2019年8月2日～8日、KIRISHIMA ヤマザクラ宮崎県総合運動公園、生目の杜運動公園で開催され、全国各地の高校生代表が集い、熱いプレーを繰り広げました。

第75回国民体育大会燃ゆる感動がごしま国体テニス競技

- ・数年前から準備を進めておりました2020の燃ゆる感動がごしま国体は、2020年10月4日～7日で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら延期が決定しました。

2019年度 目的別寄附金者芳名一覧 (登録順、敬称略)

【一般寄附金・個人】

鈴木みどり 横川仁美 藤澤 勲 植村昌弘 橋本有史	大宅映子 萩原太郎 角谷秀和 藤本茂美 橋本久美子	関間俊雄 長島 徹 畠山 康 堀田正篤 白木完治	氏家純一 井澤武尚・祥子 呉 美憲 兼城悦子 神永 晋	及能茂道 境米夫・要子 副島光彦 寺岡健吾 信沢健夫	原 隆仁 宮永俊一 立田 宏 荒川忠秀 新免泰幸	加藤啓介 内山裕之 高橋 甫 唐澤裕一 新子 実	柴田政美 山下経司 小原好一 渡邊輝雄 矢澤 猛	倉田将吾 吉田和子
---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---	--	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------

【一般寄附金・法人】

積水化学工業株式会社 株式会社アラオカ いわき工場内 いわき中央テニスコート ウインザー 商事株式会社 三菱重工業株式会社 株式会社三菱UFJ 銀行 香川県テニス協会 四国テニス協会	株式会社ルネサンス テニススクールグラウンドスラム トーナメント実行委員会 一般社団法人 爽楽社 埼玉県テニス協会 株式会社 ルイ高 三河珪石株式会社 株式会社 大宅映子事務所	星野総合商事株式会社 中興化成工業株式会社 明治神宮外苑 徳島県テニス協会 ホリバイインターナショナルテニス株式会社 三幸株式会社
---	--	--

【特定寄附金／TENNIS PLAY & STAY推進プロジェクト・個人】

鈴木みどり 山下 寛 辻村幸子 石原法男	牛込良彦 堀川忠史 萩原太郎 角谷秀和	橋爪 功 坂井幸司 小島昌義 柳原香積	高島幸一 助川卓行 今村佳草 梅原豊治	緒方文江 片岡洋一 兼城悦子 神永 晋	及能茂道 佐野 健 武正八重子 原 隆仁	福井 烈 手島智佳子 山崎昌生 中村 浩	秋元克美・りき江 秋田義久 大神哲明 加藤啓介	福島 均 高橋 甫 唐澤裕一 新居央行	矢澤 猛 倉田将吾 神谷勝則
-------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	------------------------------	----------------------

【特定寄附金／TENNIS PLAY & STAY推進プロジェクト・法人】

積水化学工業株式会社 ウインザー 商事株式会社 学校法人 五大	四国テニス協会 埼玉県テニス協会 高木工業株式会社	三菱電機株式会社 星野総合商事株式会社 中興化成工業株式会社	ホリバイインターナショナルテニス株式会社
---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	----------------------

【特定寄附金／強化プロジェクト・個人】

鈴木みどり 重光知津子 横川仁美 山下 寛 香月きょう子 石原法男	堀川忠史 角谷秀和 橋爪 功 藤本茂美 柳原香積 高島幸一	助川卓行 青木 弼 石井栄一 宇野慎一 梅原豊治 黒澤弘忠	國分英臣 兼城悦子 神永 晋 及能茂道 坂井利郎 佐野 健	杉田 剛 鈴木 節 武正八重子 七島建志 野崎拓哉 原 隆仁	平田寿敬 福井 烈 降旗健人 古田 壤 南 操二 村松敏子	村松秀樹 茂木義三郎 猪熊研二 栗岡 威 手島智佳子 細川啓二郎	山本 修 佐久間光弘 山崎昌生 木下京子 岡本秀貴 秋元克美・りき江	秋田義久 漆川美智子 加藤啓介 前田ゆかり 福島 均 高橋 甫	加藤泰彦 伊藤良一 角田並紀・駒井尚美 米山政利 矢澤 猛 倉田将吾
--	--	--	--	---	--	---	---	--	---

【特定寄附金／強化プロジェクト・法人】

積水化学工業株式会社 ウインザー 商事株式会社 テニスプレイヤーズクラブ	埼玉県テニス協会 ティエヌネット株式会社 株式会社 虎屋	安藤証券株式会社 高木工業株式会社 株式会社 NIPPO	株式会社 S & T グラスコート佐賀テニスクラブ
--	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------

【特定寄附金／ジュニア強化・個人】

角谷秀和 小島昌義	長島 徹 池谷正夫	太田宣子 伍堂英雄	兼城悦子 及能茂道	鈴木 節 橋場義正	古田 壤 村松秀樹	山崎昌生 木下京子	日比悦子 武内邦信・奈穂子	辻村勝彦・幸子 杉原泰馬	矢澤 猛
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------------	-----------------	------

【特定寄附金／ジュニア強化・法人】

積水化学工業株式会社	ウインザー 商事株式会社
------------	--------------

【特定寄附金／テニスミュージアム・個人】

鈴木みどり 重光知津子 松村英之・志ず 戸幡 康之 藤澤 勲 橋本有史 黒須美幸・ポアントロバス樹 愛知治郎 辻村勝彦 渡邊康二 羽倉信明 萩原太郎 角谷秀和 田辺慎一 柳原香積 橋本久美子 長島 徹	岡田直子 堀田正篤 林 茂興 宮崎基一 青木 弼 石井 弘 石神初江 石黒友宏 今村佳草 梅原豊治 大地千秋 呉 美憲 神崎晃代 國分英臣 児玉純子 小林 亨	小宮有二 小形敏夫 萩田忠久 笠原浩一 金子義明 兼城悦子 金田昭彦 鹿野隆信 神永 晋 亀山厚也 及能茂道 佐藤雅幸 佐野 健 市東 久 庄司秀雄 杉田 剛 鈴木 節	鈴木穂子 千本木民子 塚原 穰 辻本朝男・和子 坪川宣隆 津山隆三 出口洋子 手島 宏 中村光治 西澤太郎 野崎拓哉 橋場義正 原 隆仁 東 秩子 平野 健 福井 烈 福江孝夫	古川 博 古田 壤 松浦 督 松山時男 南 操二 宮永俊一 村松敏子 茂木義三郎 盛田正明 横澤規佐良 吉村孝子 吉本祥生 渡邊泰昭・慶子 宮城 淳 猪熊研二 岡田典夫・邦子	小西一三 土屋金藏 手島智佳子 細川啓二郎 西原俊至 嶋原貞雄 バラカン真弓 田辺 明 山崎昌生 大塩俊夫 木下京子 中村義久 山辺正顕 辻野隆三・洋子 漆川美智子 小池 明 松本鐵一	前田ゆかり 福島 均 石黒民子 安部泰永 高橋 甫 渡邊寿子 近岡雅之 堀田義男 坂田祐治 山崎眞吾 辻村勝彦・幸子 松野えるだ 館野園子 藤原ヒロミ 館野洋一郎 川田重信 坂下博康	加藤泰彦 富岡好平 鹿取克章 岸田敏明 アーネスト M. 比嘉 市川雅史 尾台正司 小川和宏 矢澤 猛 亀村達男 倉田将吾
--	--	--	--	--	--	---	---

【特定寄附金／テニスミュージアム・法人】

積水化学工業株式会社 ウインザー 商事株式会社 学校法人 五大 福井県テニス協会 長野県テニス協会 新潟県テニス協会	富山県テニス協会 北信越テニス協会 石川県テニス協会 日本女子テニス連盟 一般財団法人 東京ローンテニスクラブ 一般社団法人 爽楽社	埼玉県テニス協会 ティエヌネット株式会社 株式会社 虎屋 日本女子テニス連盟 大阪府支部 日本女子テニス連盟 鹿児島県支部 鎌倉宮カントリー テニスクラブ	高木工業株式会社 株式会社 大宅映子事務所 日本女子テニス連盟 埼玉県支部 株式会社 S & T 日本女子テニス連盟 兵庫県支部 アトム・キャピタル・マネジメント株式会社	株式会社スカイコーポレーション コムコ株式会社 ホリバイインターナショナルテニス株式会社 特定非営利活動法人 日本シニアテニス連盟
---	---	--	--	--

2019年度 表彰者リスト (対象期間:2019年4月~2020年3月)

種 類		推 薦 者		表 彰 者
功 労 賞	JTA推薦	JTA総務委員会		浅倉 俊一
				稲葉 直寿
				大宮 正
				神尾 米
				北原 大輔
				澁澤 英男
				高田 充
				堤 敏夫
				馬場 宏之
				三好 勲
				吉川 真司
	地域推薦	北海道	北海道	中村 昌弘
		東 北	宮城県	村田 裕之
		北信越	北信越	小林 和彦
		関 東	関東	柴崎美津子
			東京都	旭 輝久
			神奈川県	村田 眞吾
			埼玉県	海田久美子
			千葉県	柴崎 哲男
			群馬県	神山 好弘
			栃木県	齋藤 良徳
			茨城県	萩谷 弘通
			山梨県	鎌田 健義
			東 海	愛知県
		三重県		平岡 玄次
		静岡県		高柳 雅彦
		関 西		滋賀県
			大阪府	岩見 芳美
			大阪府	佐藤 博子
			奈良県	末光 満子
			兵庫県	實正美知子
		中 国	中国	楠瀬 正勝
		四 国	愛媛県	重信 淳也
		九 州	九州	目代 良児
	協力団体推薦	協力団体	(公社)日本プロテニス協会	渡辺 力
			(公社)日本テニス事業協会	内藤 昇
	JTA推薦	JTA 審判委員会	公認審判員	岡川恵美子
JTA 審判委員会		ボールパーソン	峯田 峻典	
JTA 審判委員会		ラインパーソン	山之内寛喜	
JTA 医事委員会		トレーナー	太田 圭介	
優秀団体賞		JTA 総務委員会	早稲田大学 男子	
特別功労賞		JTA 専務理事	Team Japan Supporters Club	
特別感謝状	JTA 総務委員会	推薦会社	ダイヤテックス株式会社	
	JTA 総務委員会	協賛企業	株式会社ゴーセン	
	九州テニス協会	クラブ・体育施設	九州国際テニスクラブ	
	茨城県テニス協会	クラブ・体育施設	CSJテニスクラブ	
	JTA 広報委員会	マスコミ及び広告企業	横山 芳治	

2019年 選手・指導者部門表彰者リスト (対象期間:2019年1月~12月)

種 類	表 彰 者	選 考 理 由
年間最優秀選手賞	大坂 なおみ	全豪オープンで前年の全米オープンに続く連覇達成。アジア人選手として史上初となるシングルス世界ランキング1位を獲得。
年間優秀選手賞	錦織 圭	全豪オープン、全仏オープン、ウィンブルドンで、前年のウィンブルドンから5大会連続となる8強入り。
	日比野 菜緒	花キュービットオープン (WTAインターナショナル) で単複優勝、シングルス世界ランキングトップ100復帰。※ダブルスは土居美咲とペア。
	青山 修子	モスクワでWTAプレミアシリーズ初優勝、スヘルトヘンボス・天津 (共にWTAインターナショナル) のツアー 2大会で優勝。※3大会ともダブルス。モスクワ・天津は柴原瑛菜とペア。
	佐藤 南帆	ナポリ・ユニバーシアードでシングルス、団体で金メダルを獲得。
ベストデビスカッププレーヤー賞	西岡 良仁	デビスカップ by Rakuten ファイナルにおいて、フランス戦で世界ランキング10位のガエル・モンフィスに勝利するなど、チームに貢献。
ベストフェドカッププレーヤー賞	土居 美咲	ワールドグループプレーオフのオランダ戦で2勝を挙げ、ワールドグループ残留に貢献。
年間優秀ジュニア選手賞	望月 慎太郎	ウィンブルドンジュニアで、日本人史上初となる男子シングルス優勝、ITFジュニア世界ランキング1位を獲得。ジュニアデビスカップチーム日本代表に選抜され、9年ぶり2回目となる世界一獲得に貢献。
	磯村 志	ジュニアデビスカップチーム日本代表に選抜され、9年ぶり2回目となる世界一獲得に貢献。
	末岡 大和	ジュニアデビスカップチーム日本代表に選抜され、9年ぶり2回目となる世界一獲得に貢献。
	川口 夏実	全豪オープンジュニアで日本人史上初となる女子ダブルス優勝。
年間優秀指導者賞	吉川 真司	大坂なおみをサポートし、戦術分析の面でも大きく貢献。
	岩本 功	ジュニアデビスカップにおいて、監督として個人では2回目となる世界一を獲得。
最躍進賞	内藤 祐希	昨年末の762位からトップ200位に入り、ITF大会においてはシングルス5勝、ダブルス2勝を獲得。

2019年度 決算概要

単位：円

経常増減の部

経常収益	
基本財産運用益	1,700,000
受取公認推薦料	46,949,116
受取登録料	66,363,210
事業収益	1,742,731,964
受取補助金等	359,960,266
受取寄附金	62,899,797
雑収益	5,620,913
経常収益計	2,286,225,266

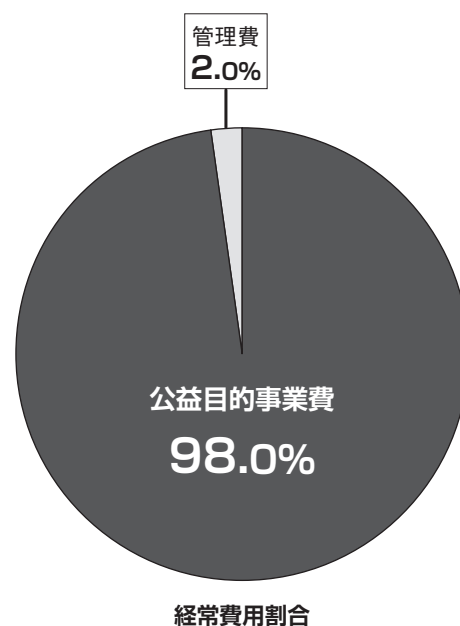
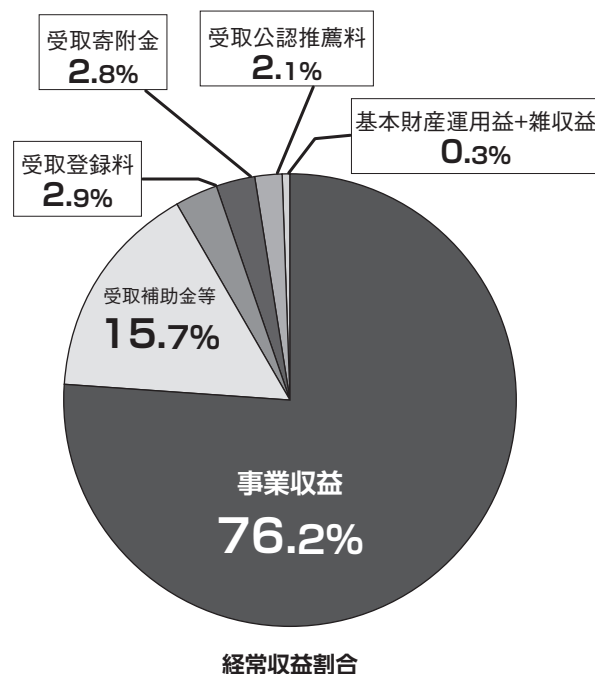
経常費用	
公益目的事業費	2,416,957,980
管理費	49,194,161
経常費用計	2,466,152,141

評価損益等調整前当期経常増減額	△179,926,875
評価損益等計	0
当期経常増減額	△179,926,875
当期一般正味財産増減額	△179,926,875
一般正味財産期首残高	452,400,655
一般正味財産期末残高	272,473,780

指定正味財産増減の部

指定正味財産期首残高	187,663,384
指定正味財産期末残高	170,312,227

資産合計	764,353,655
負債合計	321,567,648
正味財産合計	442,786,007



公益目的事業比率 **98.0%**

詳細は当協会ホームページでご覧いただけます

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

スポーツ振興基金助成金事業
(単位：円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	104,646,511
受取協賛金	63,237,900
受取広告料	270,975
受取入場料	17,677,000
出店放映等収入	22,860,033
雑収入	600,603
受取補助金等	27,500,000
受取補助金	5,000,000
受取助成金	22,500,000
他会計からの繰入額	43,951,356
他会計からの繰入額	43,951,356
経常収益計	176,097,867
(2) 経常費用	
事業費	176,097,867
諸謝金	3,813,979
スタッフ経費	11,357,952
旅費交通費	1,169,074
海外遠征費	94,020
通信費	497,628
消耗品費	22,370
出版印刷費	4,032,201
賃借料	9,120,237
保険料	680,396
租税公課	60,000
大会公認料	2,562,322
補助金	0
広報費	15,137,789
賞金	24,458,397
表彰費	1,912,069
選手経費	25,059,417
施設費	57,939,290
委託費	17,536,729
雑費	643,997
経常費用計	176,097,867
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

日本オリンピック委員会選手強化助成事業
(単位：円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	1,152,110
受取参加料	0
雑収入	1,152,110
受取補助金等	118,960,563
受取補助金	13,769,563
受取助成金	105,191,000
他会計からの繰入額	38,373,812
他会計からの繰入額	38,373,812
経常収益計	158,486,485
(2) 経常費用	
事業費	158,486,485
諸謝金	18,060,000
スタッフ経費	577,000
旅費交通費	15,072,185
海外遠征費	108,586,059
通信費	1,455,259
消耗品費	651,397
賃借料	2,322,352
保険料	3,015,318
選手経費	0
委託費	480,000
雑費	8,266,915
経常費用計	158,486,485
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

JSC有望アスリート委託事業
(単位：円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
受取補助金等	22,606,917
受取委託金	22,606,917
他会計からの繰入額	189,261
他会計からの繰入額	189,261
経常収益計	22,796,178
(2) 経常費用	
事業費	22,796,178
諸謝金	3,079,163
旅費交通費	1,121,084
海外遠征費	11,112,845
通信費	43,770
消耗品費	390,174
賃借料	627,358
保険料	104,580
委託費	5,680,000
雑費	637,204
経常費用計	22,796,178
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	97,581,811
受取協賛金	78,100,000
受取参加料	7,800,100
受取広告料	110,000
受取入場料	8,336,500
出店放映等収入	2,599,512
雑収入	635,699
受取補助金等	56,176,000
受取助成金	56,176,000
他会計からの繰入額	10,779,755
他会計からの繰入額	10,779,755
経常収益計	164,537,566
(2) 経常費用	
事業費	164,537,566
諸謝金	17,635,582
スタッフ経費	14,111,784
会議費	41,520
旅費交通費	24,648,254
海外遠征費	0
通信費	325,510
消耗品費	4,623,652
出版印刷費	2,544,631
賃借料	7,850,705
保険料	1,112,053
租税公課	3,000
補助金	0
広報費	33,000
賞金	26,630,780
表彰費	711,535
選手経費	943,863
施設費	53,833,629
委託費	6,487,399
雑費	3,000,669
経常費用計	164,537,566
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

2020年度 役員名簿

役職	氏名	推薦団体・役職
名誉総裁	眞子内親王殿下	
名誉顧問	盛田 正明	
名誉会長	畔柳 信雄	
名誉副会長	渡邊 康二	
会長	山西 健一郎	理事会推薦
副会長	武正 八重子	理事会推薦
副会長	辻 晴雄	関西テニス協会会長
副会長	寺澤 辰磨	関東テニス協会会長
副会長	坂井 利郎	理事会推薦
副会長	吉田 和子	理事会推薦
副会長	川廷 尚弘	理事会推薦
専務理事	福井 烈	理事会推薦
常務理事	堀川 忠史	四国テニス協会理事長
常務理事	中西 伊知郎	理事会推薦
常務理事	野崎 拓哉	北信越テニス協会理事長
常務理事	長岡 三郎	関東テニス協会理事長
常務理事	植田 実	理事会推薦
常務理事	高橋 甫	理事会推薦
常務理事	土橋 登志久	理事会推薦
常務理事	鈴木 宏	理事会推薦
常務理事	西村 寛	理事会推薦
常務理事	神尾 米	理事会推薦
常務理事	橋本 有史	理事会推薦
常務理事	畠山 康	理事会推薦
常務理事	水谷 光	理事会推薦

役職	氏名	推薦団体・役職
理事	浅沼 道成	東北テニス協会副理事長
理事	倉光 哲	理事会推薦
理事	松岡 修造	理事会推薦
理事	松尾 孝義	関西テニス協会理事長
理事	安東 善博	中国テニス協会会長
理事	坂井 利彰	理事会推薦
理事	合瀬 武久	九州テニス協会理事長
理事	小川 敏	東海テニス協会理事長
理事	松野 えるだ	理事会推薦
理事	八木 真理	北海道テニス協会副理事長
理事	矢澤 猛	理事会推薦
理事	吉田 友佳	理事会推薦
監事	堤 敏夫	理事会推薦
監事	長尾 武典	関東テニス協会監事
監事	坂井 幸司	関西テニス協会監事

理事待遇

青木 弼／秋田 修廣／石原 弘也／神和住 純／柳原 香積

顧問

飯田 藍／猪谷 千春／内山 勝／大島 賢三／佐久間 甫／嶋岡 正充／畑崎 廣敏／細川 護熙／松岡 功／南 操二／宮城 淳

評議員

理事会推薦評議員

吉田 宗弘	(公財) 吉田記念テニス研修センター理事長
藤沼 敏則	公益社団法人日本プロテニス協会 理事長
小泉 弘子	日本女子テニス連盟副会長
大久保 清一	公益社団法人日本テニス事業協会 会長
田島 伸一	全日本学生テニス連盟顧問
栗山 雅則	全日本学生庭球同好会連盟会長
岸 徹	全国高等学校体育連盟テニス専門部専門副部長
黒田 一寿	(一社) 全国高等専門学校連合会全国高等専門学校 体育大会競技運営専門部テニス競技委員長
斉藤 与志朗	全国中学校テニス連盟副理事長
畑山 雅史	全国専門学校テニス連盟理事長
塚本 直子	日本車いすテニス協会理事・事務局長
高津 良英	テニス用品会政策委員
山田 眞幹	(一社) 日本ビーチテニス連盟会長

地域協会推薦評議員

近藤 眞章	北海道テニス協会
長井 健	東北テニス協会
小林 和彦	北信越テニス協会
平井 誠	関東テニス協会
松本 康夫	東海テニス協会
川合 幸雄	関西テニス協会
津島 則之	中国テニス協会
近藤 明稔	四国テニス協会
本村 道生	九州テニス協会

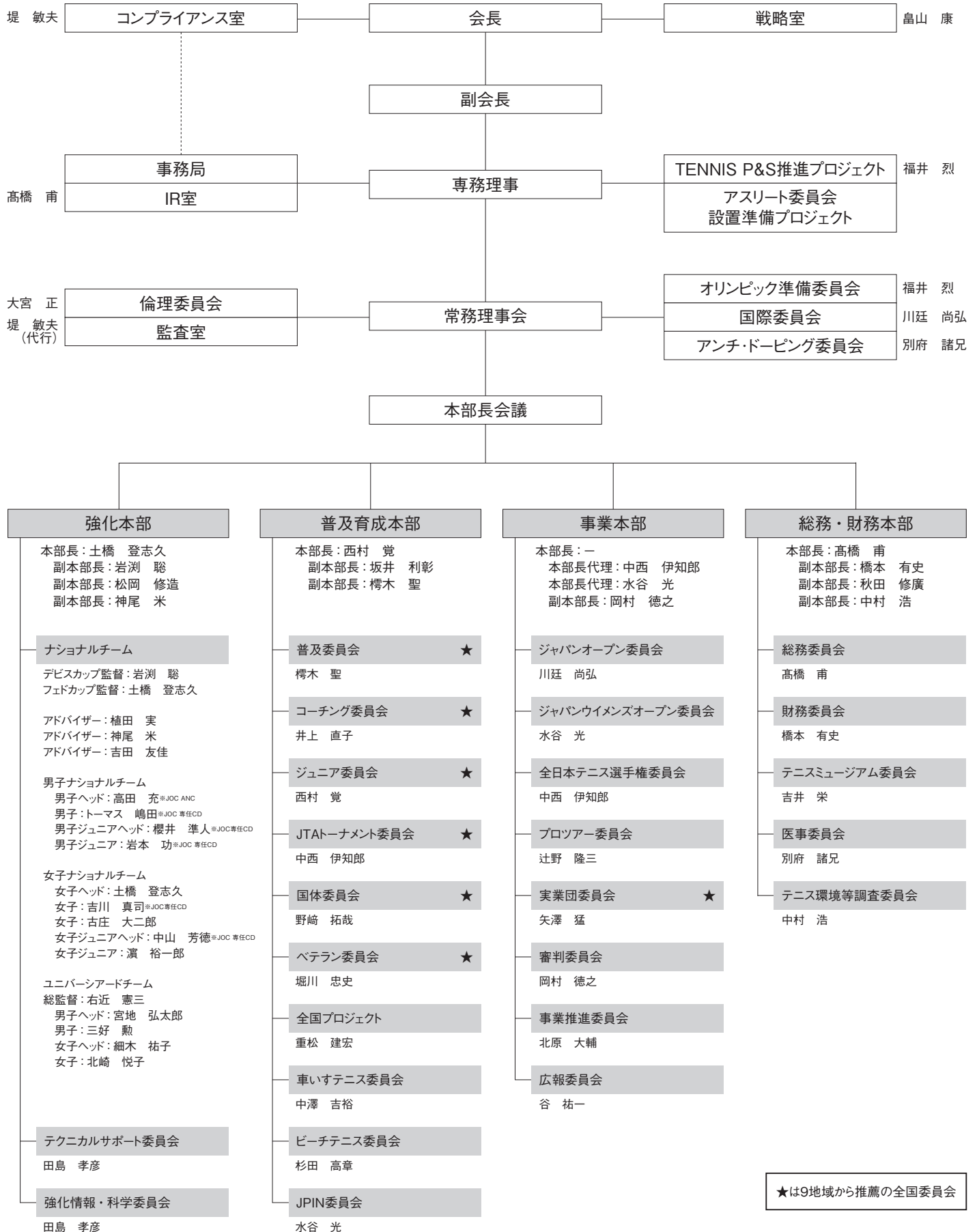
都道府県テニス協会推薦評議員

山下 宏	北海道テニス協会	澁澤 英男	群馬県テニス協会	福島 敏夫	山口県テニス協会
越善 隆	青森県テニス協会	井村 孝一	栃木県テニス協会	浅倉 俊一	鳥取県テニス協会
萩庭 純	秋田県テニス協会	黒澤 弘忠	茨城県テニス協会	船津 正雄	島根県テニス協会
藤島 努	(一社) 岩手県テニス協会	小林 繁	山梨県テニス協会	大野 裕記	香川県テニス協会
松田 陽一	山形県テニス協会	伊東 末廣	静岡県テニス協会	秋山 修一	徳島県テニス協会
菅原 宏之	宮城県テニス協会	岩崎 彌廣	岐阜県テニス協会	重松 建宏	愛媛県テニス協会
戸川 稔朗	福島県テニス協会	宮尾 英俊	愛知県テニス協会	柏井 之彦	高知県テニス協会
横山 悟	新潟県テニス協会	馬瀬 隆彦	三重県テニス協会	上和田 茂	福岡県テニス協会
三村 功	長野県テニス協会	菅原 眞智子	滋賀県テニス協会	二口 稔	熊本県テニス協会
井沢 信一	富山県テニス協会	安田 勉	京都府テニス協会	小手川 励人	大分県テニス協会
菊沢 裕	石川県テニス協会	坂本 潤一	大阪府テニス協会	菊田 廣	長崎県テニス協会
矢部 清隆	福井県テニス協会	滑川 琢也	(一社) 兵庫県テニス協会	緒方 うらら	佐賀県テニス協会
長島 泰治	(一社) 東京都テニス協会	山田 守	和歌山県テニス協会	稲葉 直寿	鹿児島県テニス協会
山田 悠一	神奈川県テニス協会	松村 英生	奈良県テニス協会	秋田 義久	宮崎県テニス協会
油井 正幸	埼玉県テニス協会	村本 茂樹	岡山県テニス協会	新垣 忠男	沖縄県テニス協会
青木 義昇	千葉県テニス協会	熊野 義夫	広島県テニス協会		

公益財団法人日本テニス協会

2019-2020年度 本部長・副本部長・専門委員長

2020/03/13改訂

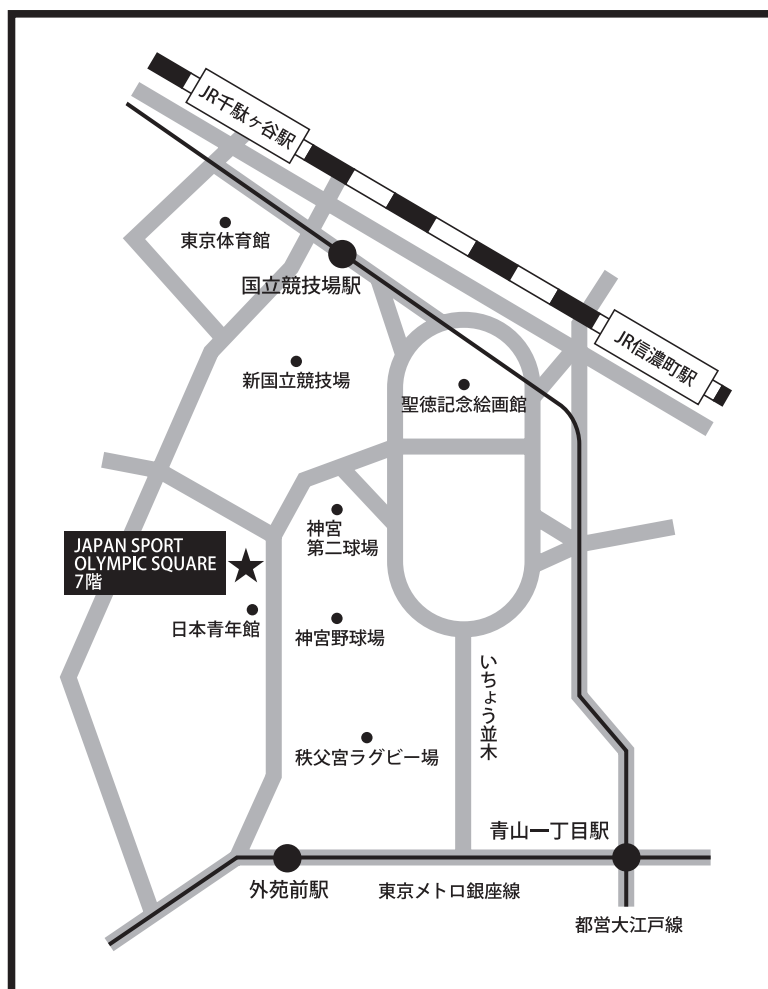


公益財団法人日本テニス協会が公認するボール・推薦する会社

2020年4月1日現在

公 認 【ボール】			
住友ゴム工業株式会社 (ダンロップ) DUNLOP FORT DUNLOP AUSTRALIAN OPEN DUNLOP ATP PRINCE プリンスボール	ブリヂストン ブリヂストン・XT8 ヨネックス TMP80	ウイルソン US OPEN EXTRA DUTY WILSON TOUR STANDARD バボラ チームオールコート	HEAD TOUR XT
推 薦			
【ウェア】 ミズノ株式会社 株式会社ゴールドウイン ヨネックス株式会社 株式会社デサント 株式会社ユニクロ 【シューズ】 アシックスジャパン株式会社 株式会社ニューバランス ジャパン	【コート】 スポーツサーフェス株式会社 株式会社NIPPO 住友ゴム工業株式会社 積水樹脂株式会社 東レ・アムテックス株式会社 大塚ターフテック株式会社 ユニチカトレーディング株式会社 ダイヤテックス株式会社 前田道路株式会社 大嘉産業株式会社 泉州敷物株式会社	【ストリング】 株式会社ゴーセン 株式会社トアルゾン 株式会社ダンロップスポーツマーケティング ヨネックス株式会社 Babolat vs Japan株式会社 【ネット】 アシックスジャパン株式会社 テイエヌネット株式会社 鐘屋産業株式会社 株式会社寺西喜商店 有限会社ミセキネット製作所 株式会社ルイ高 鶴沢ネット株式会社 高須賀株式会社 豊貿易株式会社	【ラインテープ】 グラス・ファイバー工研株式会社 【健康補助食品】 UMIウエルネス株式会社

公益財団法人日本テニス協会 Japan Tennis Association



〒160-0013
 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
 Japan Sport Olympic Square
 TEL:03-6812-9271
 FAX:03-6812-9275
 E-mail:mail@jta-tennis.or.jp
 URL:https://www.jta-tennis.or.jp/

公益財団法人 日本テニス協会
 JTAアニュアルレポート2020
 2020年9月30日発行
 発行人 山西 健一郎
 編集 IR室

●本誌中の記事、写真、イラスト等の無断転載、複写複製はご遠慮ください。